

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600251		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム笑顔の村三番地 なつめ(2階)		
所在地	石狩市樽川3条3丁目4番		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年12月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&lievosyoCd=0177600251-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和5年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階は「笑顔を決やらず、心豊かに、その人らしく、安心できる生活を大切に」、2階は「笑顔で明るく、元気に挨拶」「共に過ごす時間を大切に」との理念を掲げて、家庭的な雰囲気の中で、入居者様が心穏やかに、自分らしく充実した日々を送ることができるよう、職員は笑顔を決やらず、また、入居者様の笑顔を引き出すことができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input checked="" type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2ユニット体制になる際に皆で意見を出し合い、理念を作成した。笑顔で挨拶することから始まり、共に同じ時間を過ごし、会話を大事にし、楽しい場所にしていきたいと思ひながら、職員は日々の業務に当たっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため、地域との関わりは少なくなっていたが、今年は町内の夏祭りに参加したり、外気浴中に近所の方と挨拶を交わす等している。定期的に町内会の班長も務めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、事業所として何かできることがあれば協力したいと、市職員や町内会の方に伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者様の日常の様子を報告し、参加者に意見をいただいている。会議の議事録送付の際には意見を募る用紙を添え、返送していただき、会議時の意見と併せて日々の業務に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ流行期には手紙や電話でやり取りし、現在は運営推進会議には高齢者支援課の担当者、市の介護相談員の方も2か月に1度程度来訪され、情報交換等を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修の他、日常的に意見交換を行い、日頃の支援に反映させている。交通量の多い道路に面した住宅のため、玄関は施錠しているが、入居者様の希望時には開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と併せて研修を行っている。自社マニュアルの他、外部からも資料を集め、「グレーゾーン」と呼ばれるものについても学び、申し送りの際にも、不適切なケアが行われていないか話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用する手続きを進めている入居者様がいる。職員同士での情報交換や資料の確認等で、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解除の際は、担当者が十分な説明を行い、同意を得ている。理解や納得ができないことについては、問い合わせ先を伝え、連絡をいただく等して、対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に感想箱を設置している。ご家族に毎月郵送しているお手紙等でも、気軽にお声掛けいただくよう伝えている。入居者様との日常会話も大切に、運営に反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るよう努めている。管理者会議等で職員の意見や要望について話し合い、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況を把握している。昇給、労働環境の整備を積極的に行い、職員の意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所毎にバランスを考え、実践者研修等の参加計画を立てている。コロナ感染予防のため外部研修が難しくなったこともあり、現在e-ラーニングでの研修を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は定期的(コロナの流行状況にて変動あり)に開催されるグループホーム連絡会に参加し、ネットワークづくり、情報交換を行っている。地域ケア会議等にも参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前に、管理者と計画作成者が本人と面談し、困っていることや不安なこと、要望等を聞き取っている。入居後1か月は特に会話を多くし、信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学や面談の際にご家族から不安、要望、困っていること等をお聞きしている。その後も何か気になること等があればいつでも気軽にお声掛けくださるよう伝え、初期から信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族にの困りごと、要望をお聞きする他、入院先からの転居の場合は、病院職員からも情報を得ている。他のサービス事業者との連携や調整も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きやテーブル拭き、洗濯物干しや洗濯物たたみ、手すり拭きやゴミ捨て等、本人の得意なことやできることに積極的に取り組むことができるよう配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染予防のため、状況によりご家族の面会を制限している。電話やお手紙で日々の様子を伝え、適宜対応について相談し、本人、ご家族、ホームが良い関係を築くことができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	写真やなじみの物を居室に飾ったり、ご家族との手紙や電話でのやり取りを支援している。手紙や電話の理解が困難な入居者様については内容を取り次いでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や特徴を把握し、入居者様間で良好な関係を築くことができるよう、座席の工夫や見守り、仲介等を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽にホームに連絡をしたり、立ち寄っていただくことができるような関係づくりに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から暮らし方の希望や意向を把握したり、自ら表現することが難しい方については、ご家族から情報を得たり、様子等から思いをくみ取るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や聞き取りにて、生活歴や生活環境等を把握している。入居後も日常会話から本人の得意なことや趣味等を探り、日々の生活に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の様子を観察し、介護記録に記入している。異変があれば申し送りや連絡ノートを活用し、情報の共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人、ご家族の意向、医療機関の意見等を踏まえた上で、全職員からの意見を参考にし、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事業所独自の介護記録を使用し、日々の生活の様子や変化を記入している。連絡ノートや申し送りで、職員間の情報の共有に努め、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問歯科、訪問鍼灸、病院受診の支援等を行っている。ご家族の代行で通院介助等も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防のため自粛していた、町内会行事への参加、訪問理美容等の支援を再開している。以前はボランティアをお招きし、余興の披露等もしていただいていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療の他、24時間いつでも連絡、相談できる体制が整っており、急変時等すぐに対応できるようになっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月8回の看護師による健康チェックを支援、都度、相談やアドバイスを受け、適切な対応ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関、後加須気宇との連携を密にし、早期退院できるよう努めている。入居者様一人ひとりについて、既往歴や生活状況等をまとめた情報書を作成し、情報交換に役立っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期を迎えられた場合は、協力医療機関、ご家族、職員での話し合いの場を設けている。事業所としてできることを説明した上で方針を決め、チームとして支援に当たっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてマニュアルがあり、定期的に研修を行ったり、適宜各自、振り返りを行っている。緊急連絡網を作成し、職員に配布している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市消防署の協力を得て、年2回火災避難訓練を行っている。地震や水害時の対応についても全職員が避難方法を身につけることができるよう訓練を行っている。運営推進会議等で、近隣の方に有事の際の協力を呼びかけている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りでは個人の名前を出さないようにしている。脱衣所はカーテンで仕切り、トイレ使用时は他の方が入らないように、また付き添いの職員はトイレの外で、気配を確認しながら排泄を待つ等、個人の尊厳に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々生活の中で、一方的な声掛けを避け、本人が自己決定できるような声掛けを心掛けている。利用者本位の支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	リビングで談笑したり、自室でテレビを見たり、休憩したり、思い思いに過ごされている。孤立しないよう、また、生活リズムを考慮し、適宜様子観察や声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候や季節感に配慮しながら、本人の好みに合った服装ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が一週間交代で作成している。作成時には入居者様の要望を取り入れている。食後の片付けは入居者様と職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分、食事量は介護記録に記入している。入居者様それぞれに合わせて、食事量、形状、食器等を工夫し、栄養バランスや水分の確保に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、準備、見守りをし、必要な入居者様には介助を行う等、一人ひとりに合った口腔ケアの支援をしている。必要に応じ、訪問歯科の診療を依頼し、治療やアドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の行動パターンや、時間の間隔等を鑑みてさりげなく声を掛け、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く含まれる食材をメニューに取り入れる、牛乳を提供する、食前の体操を日課として行う等、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回入浴できるよう体調を見ながら声を掛けている。入浴の順序や湯加減は入居者様の希望を取り入れている。入浴中は職員との会話を楽しんだり、歌を歌う等、コミュニケーションの場にもなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムを把握しており、本人の希望や体調に応じ、安心して休息や睡眠を取ることができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の情報は入居者様毎にファイルし、効能や副作用、食材との相性等を職員全員が把握している。服薬後の変化は協力医療機関に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や残存機能に合った物事をそれぞれの役割として行っていただいている。体操、歌、レクリエーション、外気浴等で気分転換をしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの5類移行を受け、町内会で開催されたお祭りに参加、日常的には、ホームの畑で野菜を収穫したり、花を觀賞したり、外気浴ができるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や必要があれば、ご家族に相談し、物品購入の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や、手紙のやり取り等、希望があればできるよう支援している。直接のやり取りが困難な場合は、職員が内容を取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に、入居者様と作成した貼り絵や書道作品等を飾り、季節感が出るよう工夫している。どこでも居心地良く過ごすことができるよう、温度、音、光等、配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士がお話しやすいよう、合わない方とは互いに居心地が悪くならないよう座る場所等を配慮している。必要時には職員が仲介に入っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	精神的に不安定になるような物や事故につながる心配がある物は避け、好みの物を掲示する等、安心して居心地よく過ごすことができるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には歩行の妨げになる物を置かず、手すり等を活用していただき、できるだけ本人の力で動くことができるようにしている。安全に配慮し、居室の移動(変更)等の対応も行っている。		